

今週のメニュー

■トピックス

◇窓リフォーム商品が「COOL CHOICE LEADERS AWARD」環境大臣賞を受賞

■随想

◇2002年 レバノン旅行記（7）－レバノンの光と影－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

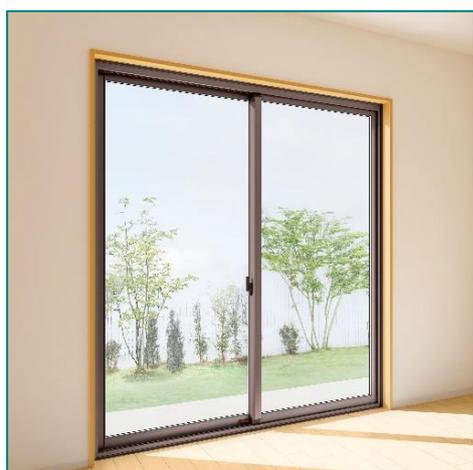
■編集後記

■トピックス

◇窓リフォーム商品が「COOL CHOICE LEADERS AWARD」環境大臣賞を受賞

環境省が主催する「[COOL CHOICE LEADERS AWARD](#)」の授賞式が2017年12月9日に開催され、株式会社LIXILの窓リフォーム商品「[リフレム リプラス](#)」が環境大臣賞を受賞しましたので紹介します。この商品は、壁を壊さず既存の古い窓を最短60分^{※1}で新しい窓に交換できるという特長をもった簡単窓リフォームです。

「COOL CHOICE LEADERS AWARD」は、環境省が推進する「[COOL CHOICE](#)^{※2}（地球温暖化対策に資する賢い選択をしていこうという取組み）」のさらなる拡大と発展を目指し、2017年に初めて開催された表彰制度です。「COOL CHOICE」に率先して取り組んでいる“人・グループ”及び、「COOL CHOICE」を広げるための“アイデア”が対象で、今回518作品の応募があり、プロダクト部門、サービス部門、アクション部門の作品の中から環境大臣賞として「リフレム リプラス」が選ばれました。



リフレム リプラスの事例

同社が、2030年までに目指す「環境負荷ネットゼロ」の実現には、住宅の中で最も室内外への熱流入が大きい窓をはじめとする開口部の性能が重要となります。そのため、開口部である窓リフォーム商品は環境負荷の低減に非常に重要であり、その普及への取り組みを進めています。今回受賞した商品は昨年2017年3月に販売され、温室効果ガスCO2の排出量削減に大きく貢献できる商品として本アワードに応募されました。

近年関連業界を挙げて窓リフォームに注力しています。その背景として、新築木造戸建て住宅では、2020年の省エネ基準義務化に向けて窓の断熱化が急速に進んでいますが、これまでの既設住宅に対しては規制がなく、いまだ約8割が非断熱窓であり、省エネが進んでいないことが課題となっています。同社は、その社会課題を解決するために、省施工で簡単にリフォームできることが窓リフォームでの省エネ普及につながると考え、開発に

あたっては、多種多様な古いサッシ形状に対応が可能な高い汎用性を持たせることや、室内・屋外の見付寸法を最小化することに創意工夫を凝らしました。

これまでの窓リフォームとの大きな違いは、既設のサッシ枠・窓枠はそのままに、その上からカバー材をかぶせて新しい窓にリフォームするカバー工法の中で、室内の立上がり部を最小で24mm（既設窓、窓サイズ、アングル付の場合）とすることで、開口面積を極限まで拡大して、採光面積の確保を実現した点が特徴的といえます。

同商品には、構造のリフォーム専用枠と、アルミと樹脂（PVC）からなる複合サッシが採用されています。これによって断熱性が向上し、既存住宅でも結露など住まいの悩みを解決する窓として注目され、窓リフォームがより一層普及していくことが期待されます。



リフレム リプラスの構造

※1 施工現場の状況により、施工時間が異なる場合がありますので、目安としてお考えください。

※2 COOL CHOICE とは、2030 年度に温室効果ガスの排出量を 2013 年度比で 26%削減するという目標達成のため、省エネ・低炭素型の製品への買換・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する、あらゆる「賢い選択」を推進する政府主導の国民運動。

■ 随想

◇2002 年 レバノン旅行記（7）－レバノンの光と影－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

内戦後、レバノン政府はレバノンを近東の金融センターと観光国にしようとしています。幸いなことに、レバノン、面積当りの大学の数は世界一。大学への進学率もアメリカ並みの高学歴社会。海外の大学に進学する人も多く、その人達の数も入れると大学への進学率はアメリカ以上だといわれています。

たしかに、レバノンのどこに行っても大学や大学院があります。

学歴が高く、頭の切れるレバノン人。国内に職がないと、さっさと海外に出稼ぎに。それも、肉体労働ではなく頭脳労働での出稼ぎなのでレバノンへの仕送りもかなりの額に。これなら、物価が多少高くても、十分やって行けます。ただ、一部には貧富の差が拡大しつつあるという指摘もあります。

政治情勢が安定し、海外からの送金も増えつつあるレバノン。内戦からの復旧も急速に進みつつあります。1998 年には特に内戦での被害が大きかったベイルートのダウンタウンの再建計画が正式に国会で承認され、現在急速にその姿を変えつつあります。

しかし、イタリアのローマと同様、どこを掘ってもフェニキア時代の遺跡が出てくるといわれるレバノン。発掘作業が優先されるためなかなか作業が進みません。発掘作業を出来るだけ早く済ませるため、レバノン国内だけでなく世界各国の大学や研究機関に参加を呼び掛けています。日本の大学もいくつか参加しているようですよ。

しかし、新しく立て直されたビルのすぐ隣には内戦で崩れ落ちたままの建物が。これが今のレバノンです。



再開発が済んだダウンタウン



再開発地域の裏手は、こんな様子です

そういえば、この再開発地域に日本大使館があります。9月に移ってきたばかりのピカピカのオフィス（というか、まだ建設中）。それまではバイルートから車で30分ほど離れた山の中にありました。再開発が済んだ建物、この後もずっと破壊されないといいのですが。

（つづく）

次回は、（8）－お医者さん大バーゲン－です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

平成30年（2018年）は、明治元年（1868年）から起算して満150年に当たります。政府では、「明治150年」関連施策として、地方公共団体や民間も含めて、全国で取組を推進しています。

以下のホームページを御覧下さい。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/meiji150/portal/>

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)